

南

大極殿院南門復原への挑戦

～清水建設に受け継がれるものづくりのDNA～

門

215年を超えて受け継がれてきたもの。

それはいつの時代も良いものをつくる匠の心。

復原

日本が形づくられる黎明期の奈良時代。
その中枢の場であった平城宮の造営に、
古の匠たちは己の技術の粋を尽くし挑みました。
宮大工として創業し、
ものづくりの心を受け継いできた清水建設が、
伝統技法を用いて現代に古の建物をよみがえらせます。

期間: 2021年12月11日(土)

▶▶▶ 2022年3月12日(土)

休館日: 12月29日～1月1日、2月14日

会場: 平城宮いざない館 [企画展示室]

10:00～18:00(入館は17:30まで) **入館無料**

 平城宮跡歴史公園
Nara Palace Site Historical Park

第一次大極殿院
南門復原

子どもたちに誇れるしごとを。

 SHIMIZU CORPORATION
清水建設

大極殿院南門復原への挑戦

～清水建設に受け継がれるものづくりのDNA～

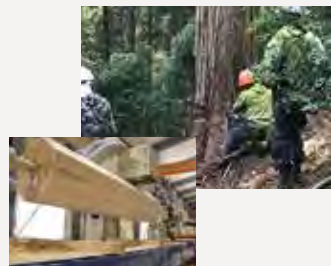
南門とは、第一次大極殿院の正門であるとともに、天皇が出御し、叙位が行われた場所でもあり、当時の日本で一番格の高い門であった。

平城宮跡歴史公園において国土交通省により進められている第一次大極殿院復原事業。整備工事の最初の工事となるのが「南門」で、清水建設により2017年11月に工事着手しました。本展では、南門復原の工事過程を、実際に使用した道具や図面などともにご紹介いたします。



原木

本工事の原木は、強度が高い構造材として利点のある吉野檜を多く用いている



礎石

直径1mを超える硬い花崗岩を、柱を据える礎石の形に手作業も交えて仕上げていく



木材

手斧や槍がんなといった古代の道具を用いて、八角形丸太から丸柱へと整形する



原寸引付

軒や棟の反りなど曲線同士が交わる複雑な箇所など、全て原寸大で図面を描く



加工・仕上げ

現場に大型加工機などをもちこみ、すべて現地で加工から仕上げまでを行った



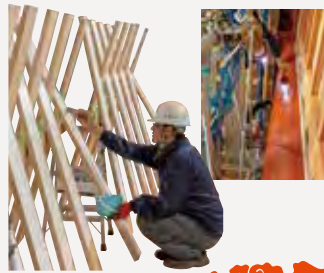
瓦工事

平城宮跡出土品の研究を基に、鬼瓦や軒先の文様を忠実に再現していく



塗装工事

丹土、緑青、胡粉を用いて古代の色を再現し、接着剤として膠を混ぜる



鍔金物工事

金物ひとつひとつの表面を均すため、鉄製のへらで根気よく磨いて仕上げる



現物展示



瓦原寸図図面



鬼瓦

棟札

利用案内・アクセス

【開館時間】 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

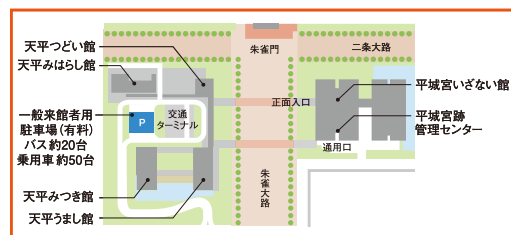
【休館日】 2月の第2曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日～1月1日)

【入館料】 無料

※交通渋滞緩和のため、公共交通機関のご利用にご協力ください。



※ご来館にあたっては新型コロナウイルス感染症拡大防止へのご協力をお願いします。



平城宮いざない館へは

- ぐるっとバス(土日祝ダイヤ15分間隔、平日ダイヤ30分間隔で運行/運賃100円)
- ・近鉄大和西大寺駅南口から「朱雀門ひろば」停留所まで約10分
- ・近鉄奈良駅から「朱雀門ひろば前」停留所まで約13分
- JR奈良駅西口から路線バス学園前駅行きにて「朱雀門ひろば前」停留所まで約11分